

## 第 11 回国際シンポジウム МАПРЯЛ

### «ロシア語の理論的・実践的比較対照および類型表現の研究» 参加報告

鈴木 理奈

2014年4月3日~6日にブルガリアの聖キリル・メトディー名称ヴェリコタルノヴォ国立大学で開催された、第11回国際シンポジウム МАПРЯЛ「ロシア語の理論的・実践的比較対照および類型表現の研究」(Международный симпозиум МАПРЯЛ «Теоретико-практическое изучение русского языка и его сопоставительно-типологическое описание»)に参加した。<sup>1</sup>1971年より4年に一度開催されているこの国際シンポジウムは今年で11回目を迎え、今回はヴェリコタルノヴォ国立大学ロシア学学科50周年を記念する大会でもあった。この国際シンポジウムの大会主催者には、МАПРЯЛ、ヴェリコタルノヴォ国立大学、ブルガリアロシア学学会、ブルガリア教育科学省、ブルガリア Россотрудничество 代表部、その他の組織団体が名を連ねている。

第11回国際シンポジウム МАПРЯЛ「ロシア語の理論的・実践的比較対照および類型表現の研究」には、ブルガリア、ロシア、セルビア、日本、ウクライナ、イラン、ルーマニア、ポーランド、カザフスタン、トルコ、グルジア、スロヴァキアから、137名の発表者が参加した。シンポジウムは、3日午前に開会式と基調講演、3日午後と4日に分科会、5日に円卓会議と閉会式の日程と内容で行われ、また4日の夜にはパーティー、5日の午後は文化プログラムも催された。



シンポジウム開会に際して、ヴェリコタルノヴォ国立大学学長 Пламен Легкоступ 教授をはじめ各大会主催組織より式辞が述べられた。基調講演では М.В. Всеволодова 教授が「スラヴ諸語等との対比におけるロシア語文法の問題」について、С.П. Димитрова 教授が「語用論的視点による新しい言語概念の発想」について、А.П. Чудинов 教授が「政治

的メタファーの認知・推論的比較研究法」についてそれぞれ興味深い話をされ、その後討論も行われた。

このシンポジウムでは、14の分科会と円卓会議が開かれ、文芸翻訳やテキストの比較対照分析など様々な緊急課題が論議された。分科会では「ロシア語理論の問題と比較対照表現」、「現代ロシア語の変革過程」、「翻訳の理論的および実践的局面」、「文化・歴史的枠組み社会におけるロシア語」、「現代技術と言語学研究」、「外国語としてのロシア語教授法の理論と実践」、「外国語としてのロシア語教授法における現代技術」などのテーマに基づき問題が考察され、なかでも現代ロシア語の変革過程、言語規範と傾向、文化・歴史的枠組み社会における

ロシア語教育について特に注意が向けられた。また外国語としてのロシア語教育の討議に関しては、現代ロシア語における技術革新過程、文献学専攻と非専攻の学生へのロシア語教授法、コミュニケーション文体論など一連の問題が論及された。

日本からの出席者は筆者を含め 2 名であり、シンポジウムのプログラムに掲載されている発表者および報告題名は下記の通りである。

*Судзуки Р. Средства выражения категории количественности в русском языке в сопоставлении с японским языком*

*Ямада И. Семантическая деривация существительных как объект типологии*

筆者は 4 月 4 日午前の部、「ロシア語の理論的問題と比較対照表現」における「語形成論と形態論」の分科会にて発表を行い、ロシア語における数量表現法



と日本語との比較分析について統語論的観点から報告をした。<sup>2</sup>ロシア語と日本語は言語構造的に異なるが、聴衆者からは日本語に対する関心も感じられた。この分科会での発表者は 14 名の予定のところ、一部欠席者もあったが、会場には発表者以外にも多くの出席者がみられ、緊急の課題に対し終始活発な討論がなされた。

閉会式では国際シンポジウム組織委員長のヴェリコタルノヴォ国立大学文献学部ロシア学学科長 Гочо Гочев 教授より、このシンポジウムは国際規模でのロシア語教育に大きな貢献をもたらすものであったことが強調され統括を述べられた。

開閉会式や分科会場は多くの出席者で賑わい活気あるシンポジウムであった。また、このシンポジウムは学術的水準が高く有意義である、という参加者達からの声も度々耳にした。今回の国際シンポジウム参加においては、興味深い報告や討論から新しいことを知り得ただけでなく、多くの研究者と情報交換をして親交を深められたことも収穫であったと思う。

(すずき りな, 札幌医科大学)

<sup>1</sup>Россотрудничество のウェブサイトに掲載されている、第 11 回国際シンポジウム МАПРЯЛ「ロシア語の理論的・実践的比較対照および類型表現の研究」の統括の情報も学会参加報告の参考補足資料とする。<http://old.rs.gov.ru/node/44851>

<sup>2</sup>第 11 回国際シンポジウム МАПРЯЛ「ロシア語の理論的・実践的比較対照および類型表現の研究」プログラムのウェブサイト。(2014 年 8 月 25 日現在閲覧可能)  
<http://www.uni-vt.bg/pages/8680/uplft/%CF%F0%EE%E3%F0%E0%EC%E0%202014.pdf>